

たまむしの森

— 谷川士清の会会報 —

第 21 号

発行年月日

令和 2 年 3 月 31 日

谷川士清の会

八町生まれの故か、5代目の代表として推挙されてから5年になろうとして居ります。「重い大任」でしたが、「大忍・生成発展・感謝協力」と云う私の信念でもある教えを支えとして一所懸命、会の運営に努めて参りました。又、何よりも会員の協力と財政力に乏しいボランティア団体である我々を支えて頂く特別会員のお蔭をもちまして、地道ながらも力いっぱい活動を行うことができました。その結果、マスコミ等に取り上げられることも多くなり、3年前には荣誉ある「津市教育功労者」として谷川士清の会が表彰されました。

そして「日本書紀編纂 1300 年」の記念すべき本年7月に谷川士清旧宅近くに新装オープンとなる新町会館には、谷川士清先生の名を冠した学習室も設置されます。

◎ 昨年、会の設立

の行事を行いました。

に谷川士清作詞・中された「やまとたましを加えたものを、新聴いていただく予定ひ」に込められた士といったものに思い

～不易流行～を求めて

谷川士清の会 代表
池村 幸久

◎ 20周年を迎え、記念

本年は、明治44年田章作曲として発表ひ」に新しく伴奏部分町会館の竣工式です。「やまとたまし清先生の純粹さ無念を馳せながら、令和

の時代の我々の使命を考える一助としていただければ望外の喜びです。

「士清教室」では従来通りの谷川先生の研究や顕彰、史跡案内を行います。範囲を広げ伊賀街道、松尾芭蕉翁に結ぶ道沿いの偉人や史跡の学習やガイドも行われる予定であります。まさに、「不易流行」を求める道になるのかも知れません。「令和の『洞津谷川塾』」の出現とも言えます。多くの人たちが新町会館に集い学ぶ事になれば幸甚です。

会の運営も、原点に戻り、就任時に申し上げた「守・破・離」に「不易流行」の発想を取り入れて、21年目に入った「研究・顕彰」団体の理想のありようを提示しようと考えます。

(いけむら・ゆきひさ)